



令和4年度 農山漁村振興交付金
(農福連携対策のうち普及啓発等推進対策事業)

「農福連携の取組主体の発掘と取組への支援」 報告書

令和5年3月31日
一般社団法人 全国農協観光協会

目 次

1. はじめに	P. 3
(1) 本事業の背景	P. 3
(2) 本事業の目的	P. 3
(3) 活動の概要	P. 4
2. 活動内容	P. 5
(1) 支援対象取組主体の募集と支援対象の選定	P. 5
(2) 支援対象取組主体に対する支援内容の特定	P. 5
(3) 専門家派遣による取組主体への支援	P. 8
(4) 委員会の開催	P.11
3. 活動結果	P.12
(1) 専門家派遣実績	P.12
(2) 専門家派遣に至らなかった取組主体17者の主な理由	P.13
(3) 支援事例	P.13
(4) 取組主体への専門家派遣後のアンケート結果	P.21
(5) 有識者に対するアンケート結果	P.23
4. 本事業を通じての気づき	P.25
5. 付属資料	P.27

1. はじめに

(1) 本事業の背景

農山漁村では、人口の減少・少子高齢化等に伴い、地域コミュニティの活力低下、地域経済の低迷が危惧されている。このような中、農林水産業では、社会福祉法人、農業経営体・農家、民間企業・特例子会社等が主体となって、障害者等に新たな就労・雇用の場を提供する「農福連携」の取組を推進している。農業分野への障害者就労は以前から行われてきたが、近年、官民を挙げた取組として農福連携という言葉が定着し、新聞やテレビ等で取り上げられる機会も増えている。

農福連携を広く展開するために、政府は「農福連携ビジョン（令和元年4月閣議決定）」において令和6年度末までに農福連携に取り組む事業実施主体を新たに3,000創出する目標を掲げ、この目標達成に向けて、「知られていない」「踏み出しにくい」等の課題に対して、官民を挙げた多くの活動が実施されている。

また、高齢者、生活困窮者等の就労・社会参画支援や犯罪・非行をした者の立ち直り支援等、農福連携をユニバーサルな取組として様々な分野にまで活動を広げ、農福連携を地域づくりのキーワードに据え、地域共生社会の実現を図ることが重要である。

この考え方を拡張し、農村が有する地域資源を発掘し、その価値を磨き上げた上で、農業以外の他分野との連携や、地域内外の広域連携、関連産業の技術活用等により、新たな事業・価値の創出や所得向上を図る「農山漁村発イノベーション」が推進されている。農山漁村における所得と雇用機会の確保、農福連携に取り組む農業経営体の経済的発展が重要であり、農福連携の個々の取組が、地域の農業、日本の農業・国土を支える力になることに期待が寄せられている。

農山漁村の課題

- ・人口減少・少子高齢化
- ・地域コミュニティの活力低下
- ・地域経済の低迷 等

農福連携の推進

新たに3,000事業実施主体を創出

農山漁村発イノベーション

- ✓ 地域資源の発掘・磨き上げ
- ✓ 他分野との連携・広域連携
- ✓ 関連産業の技術活用

期待される農山漁村

- ・新たな事業・価値の創出
- ・所得と雇用機会の確保
- ・農業経営体の経済的発展 等

**地域共生社会を実現し、
日本の農業・国土を支える力に!!**

(2) 本事業の目的

農福連携は「農業」と「福祉」が連携して行われる取組であり、地域条件・栽培品目・栽培方法等により、農業経営のスタイルは様々である。福祉も同様に、障害者・高齢者・生活困窮者・触法者等、対象者や目的は様々である。そのため、農福連携の実践スタイルは、限りなく存在し、取組主体毎に解決すべき課題も異なる。

農福連携の取組段階に応じた取組主体の主な課題は以下のとおりである。

構想段階または取組の間もない段階(1~3年未満)

- ・農地・資金力の確保
- ・栽培品目の決定
- ・販売先の確保・開拓
- ・栽培計画の作成
- ・人材の確保 等

取組の継続段階

- ・障害者等の農林水産業に関する技術習得
- ・作業工程のマニュアル化
- ・ユニバーサル農園の開設・運用
- ・移動式トイレの導入
- ・生産・加工販売施設の整備
- ・安全・衛生面にかかる附帯施設の整備 等

農福連携の取組加速や強化を目指す 地域コンソーシアム設立段階

- ・地域の気候風土を生かした 農業の態様、農産物の生産・加工等「強み」のある産地形成
- ・農業から林業・水産業・エネルギー産業への事業拡大・連携
- ・地域の課題解決や地域再構築を通じた雇用の創出、農家の経営規模拡大、新たな価値の創出、新しい地域コミュニティ形成 等

本事業では、農福連携の全国単位での推進拡大に向けた普及啓発を目的として、農福連携の取組主体により実施される上記の取組段階に応じた活動を、専門家派遣を通じて支援した。

なお、取組主体からのニーズがあれば、農山漁村振興交付金の令和4年度追加公募ならびに令和5年度公募に向けて、専門家派遣による事業計画の作成や費用対効果の算定にかかるアドバイスを行った。

1. はじめに

(3) 活動の概要

活動実施時期：2022年5月23日～2023年3月31日

活動内容

- ①農福連携取組主体からの相談受付と支援対象の取組主体の選定
- ②相談事項に応じた専門家とのマッチングと課題解決策の立案支援
- ③課題解決に向けた人的支援
 - ・福祉事業所等が直接農業に取り組む際の農地・技術・施設・機械等の確保に向けた間接支援
 - ・近隣の農家等とのマッチング、連携に向けた仲介・間接支援
 - ・農業経営面での相談対応
 - ・コンソーシアム設立にあたっての知見の提供、関係機関との連絡調整
 - ・取組主体と農福連携技術支援者との連携促進
- ④検討委員会・報告会の開催

活動にあたっての配慮事項

- ア. 取組主体に対して十分なヒアリング調査を実施
- イ. 取組主体の課題を的確に解決できる専門家（分野ごとに1～3名程度）をマッチング
- ウ. 実地調査を通じて、取組主体の状況に応じたゴールを設定
- エ. 支援が一過性のものとならないようフォローアップ期間を設定して経過観察を実施
- オ. 小さな成功体験を通じた意識醸成と、そこから次の行動に結びつくよう、PDCAサイクルを構築支援

活動スケジュール

取組内容	2022年							2023年		
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①支援対象取組主体の募集										
②支援対象取組主体の選定										
③ヒアリング調査（電話・Zoom＋現地）										
④専門家とのマッチング支援										
⑤実地調査を通じた支援内容の特定										
⑥取組主体の活動支援										
⑦取組主体に対するフォローアップ										
⑧委員会の開催										
⑨報告書の作成										

成果（目標）

- ①支援した取組主体数：農福連携の発展段階が異なる32者（30者）
- ②うち支援した地域コンソーシアム等：6者（6者）

本事業を通じての気づき

- ①専門家による伴走型支援の必要性
- ②取組主体の自走に向けた意識化
- ③取組主体と農福連携技術支援者との連携促進ならびに活躍の場の創出
- ④地域コンソーシアム設立による農福連携の推進の必要性

2. 活動内容

(1) 支援対象取組主体の募集と支援対象の選定

① 支援対象取組主体の募集

支援対象取組主体の選定に先立ち、本省（北海道農政事務局）ならびに地方農政局、沖縄総合事務局の9箇所を訪問し、本事業の概要説明と併せて、管轄内の農福連携の現状や支援希望者について意見交換を行った。

この結果、各地方農政局等が管轄内の農福連携取組主体について豊富な情報を有しており、発展段階の異なる計30者以上の支援候補者を紹介いただけたことが確認できたため、支援対象取組主体は主にこれらの候補者から選定することとした。この他、農福連携関連事業者からの紹介や、昨年度事業において支援を受けた取組主体も候補とみなした。

当初、募集時期は2022年6月に限定する予定であったが、この変更に伴って地方農政局等からの支援に関する問い合わせを2023年1月まで継続的に行うこととした。

② 支援対象取組主体の選定

上記によりリストアップされた本事業の支援対象候補者である全取組主体に対して、電話やe-mailを通じて現状と支援ニーズを確認した。求める支援内容に差はあるが、いずれの候補者も支援の必要性が確認できた。しかしながら、候補者の繁忙度と支援の緊急性によって、支援開始時期を一律に設定できないことが明らかになったため、候補者とは継続的に連絡を取りつつ、支援開始が可能と判断された候補者から順に、ヒアリング調査を開始した。

最終的に、リストアップされた54候補者のうち、支援対象として選定された取組主体は32者であった。残り22候補者のうち、17者については支援時期や支援内容等の調整がつかず専門家派遣に至らなかった。また、5者については連絡がつかない等のため支援を打ち切り、後述のフォローアップの対象からも外することとした。

(2) 支援対象取組主体に対する支援内容の特定

③ ヒアリング調査の実施

各取組主体は、取組開始時期や施設運営、農業経営状況等が異なっており、求められる支援内容も多様である。そこで、取組主体が自覚する現状認識や課題を抽出し、後述の専門家選定と実際の支援スケジュール作成に役立てることを目的として、ヒアリング調査を実施した。

同調査実施にあたっては、取組主体の希望を受けて電話・Zoom等のオンライン調査、現地調査の2つの方法を採用し、基本的に事務局を担う本会が調査した。ただし、調査前のニーズ確認において問題意識と解決策が明確であった一部の取組主体に対しては、後述する専門家とのマッチングを事前に実施し、ヒアリング調査の際に専門家が同行した。

ヒアリング調査前に想定した支援ニーズと取組主体の支援希望件数は次のとおりであった（重複回答含む）。

ソフト支援ニーズ	件数	ソフト支援ニーズ	件数	ハード支援ニーズ	件数
1: 農業栽培技術の習得	2	11: 事業計画策定	0	17: 低コスト耐候性ハウス	4
2: 加工技術の習得	4	12: 法律・特許・税務・会計	0	18: 休憩所	1
3: 販売技術の習得	2	13: ITシステム・IoT・AI関係	0	19: トイレ	4
4: 新商品開発	0	14: WEBサイト・SNS関係	0	20: 農産加工施設	2
5: 販売体制構築	1	15: 地域コンソーシアム設立	6	21: 冷凍貯蔵施設	2
6: 作業マニュアル作成	1	16: その他	5	22: 作業場・加工場	7
7: GAP取得関係	0	ユニバーサル農園	4	23: 食材提供供給施設	0
8: ノウフクJAS取得関係	0	地域内の農福連携における事業性調査	1	24: 農産物集荷施設	0
9: 教育・人材育成	5			25: 直売施設	1
10: 生産・品質管理・ISO	0	合計	26	26: 土地取得・登録手続き等	2
				27: その他（ユニバーサル農園）	3
				合計	26

2. 活動内容

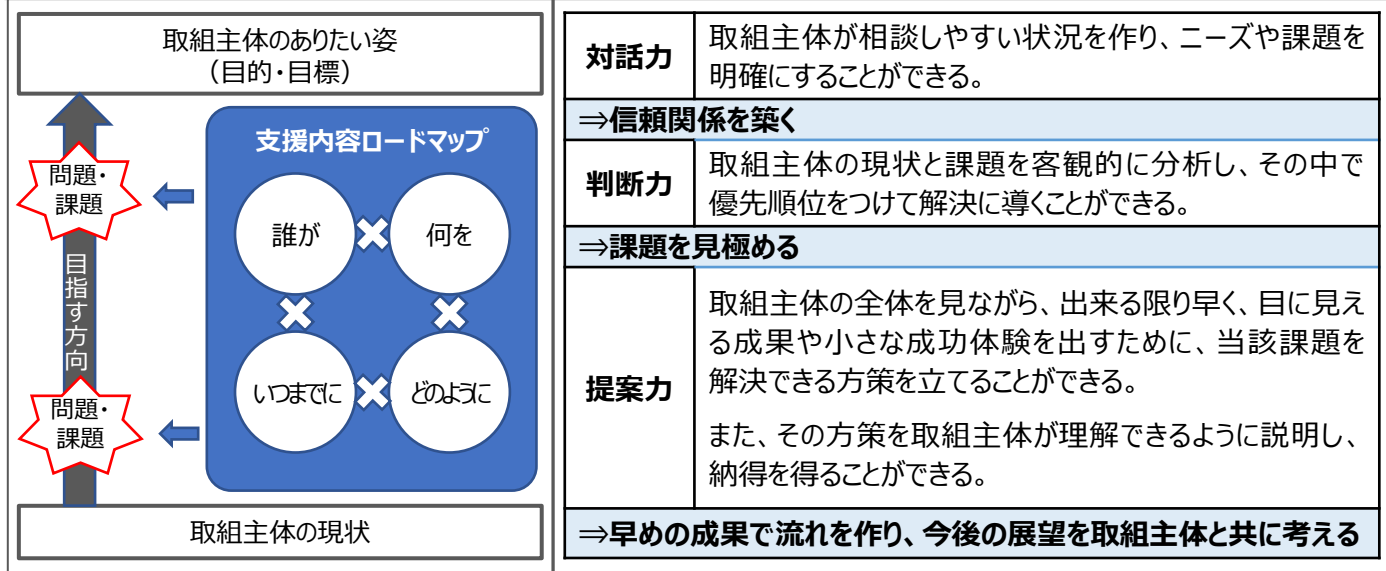
(2) 支援対象取組主体に対する支援内容の特定

④ 専門家とのマッチング支援

ヒアリング調査を通じて求められる支援ニーズが明らかになったことを受け、課題解決が可能な専門家に対して事務局から連絡し、各取組主体に対する支援専門家をマッチングした。

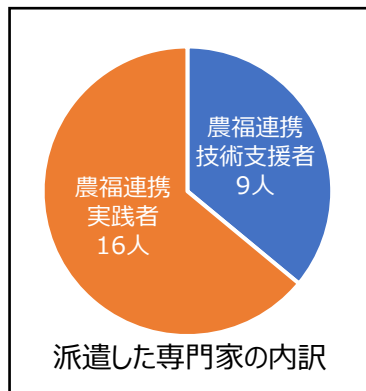
専門家による最初の業務は、現場の問題・課題を取組主体とともに整理し、有する資源を活用して、誰がどの問題・課題をいつまでに、どのように解決するのかについて、支援内容ロードマップに取りまとめることである。この専門家に求められる能力は、下図に示すスキルを持つことに加え、取組主体と伴走する形で取組主体自身が農福連携の課題に気づかせることが大切であり、これによって、農福連携の推進のみならず、農業自体の維持発展につながる事が期待された。

専門家に求められる能力



この能力を有する専門家には、県の技術支援センターや農業協同組合の営農、障害者に仕事の組み立てができる社会福祉法人の農業版ジョブコーチ等が挙げられる。

本事業において、取組主体の課題解決に向けて派遣した専門家の内訳を右図に示す。合計25名の専門家のうち、9名が農林水産省認定の農福連携技術支援者であり、16名が農福連携実践者であった。



⑤ 実地調査を通じた支援内容の特定

専門家による取組主体の現状と課題の確認に加え、ヒアリング調査では分からなかった追加の情報収集を目的として、専門家による実地調査を実施した。

実地調査における専門家との協議を経て、取組主体が専門家による支援を受けることを決断した場合、取組主体は「専門家派遣申込書」を作成し、事務局に提出した。

専門家派遣申込書における取組主体への確認事項

取組主体の概要	団体名、所在地、代表者、窓口担当者、団体の分類、資本金、創業年月、売上高、従業員数
専門家支援の利用内容	支援を受けたい課題（選択式）、求める支援の具体的内容、希望専門家（もし希望者がいれば具体名、そうでなければ専門家に求めるイメージを記載）
その他記載事項（可能な範囲で）	1. 農福連携取組の背景（きっかけ） 2. 取組の体制、具体的内容 3. 取組実績（直近5年間における障害者数、平均工賃、農地面積、農業収入等） 4. 農福連携取組の工夫 5. 農福連携取組の効果（障害者等に対して、農林水産業の維持・発展等に対して、地域活性化に対して）

2. 活動内容

(2) 支援対象取組主体に対する支援内容の特定

令和4年度農山漁村振興交付金事業
「農福連携の取組主体の発掘と取組への支援」
専門家派遣 利用申込書

年 月 日

標記について下記のとおり申し込みます。

ふりがな			
団体名			
所在地	〒		
代表者名	(肩書:)	訪問先最寄り駅:	線 駅

(窓口担当者)

ふりがな			
担当者名	(役職名:)	URL	
E-MAIL		電話	

(団体の概要)

分類	1. 社会福祉法人 2. 農業経営体等 3. NPO法人等 4. 特例子会社・民間企業 5. 農業協同組合 6. 自治体等 7. その他 ()			
取扱品目・事業内容				
資本金	万円	創業年月	年 月	
売上高	年間 万円	従業員数	名	

(利用内容)

当てはまる支援を受けたいキーワードを選択してください。(複数選択可)

【ソフト対策】

- ☐1: 農業・栽培技術の習得 ☐2: 加工技術の習得 ☐3: 販売技術の習得 ☐4: 新商品開発
☐5: 販売体制構築 ☐6: 作業マニュアル作成 ☐7: GAP 取得関係 ☐8: ノウブク JAS 取得関係
☐9: 教育・人材育成 ☐10: 生産・品質管理・ISO ☐11: 事業計画策定 ☐12: 法律・特許・税務・会計
☐13: IT システム・IoT・AI 関係 ☐14: WEB サイト・SNS 関係
☐15: 地域コンソーシアム設立関係 ☐16: その他 ()

【ハード対策】

- ☐17: 低コスト耐候性ハウス ☐18: 休憩所 ☐19: トイレ ☐20: 農産加工施設 ☐21: 冷凍貯蔵施設
☐22: 作業場・加工場 ☐23: 食材提供供給施設 ☐24: 農産物集荷施設 ☐25: 直売施設 ☐26: 土地
☐27: その他 ()

① 支援を受けたい具体的内容を記入してください。

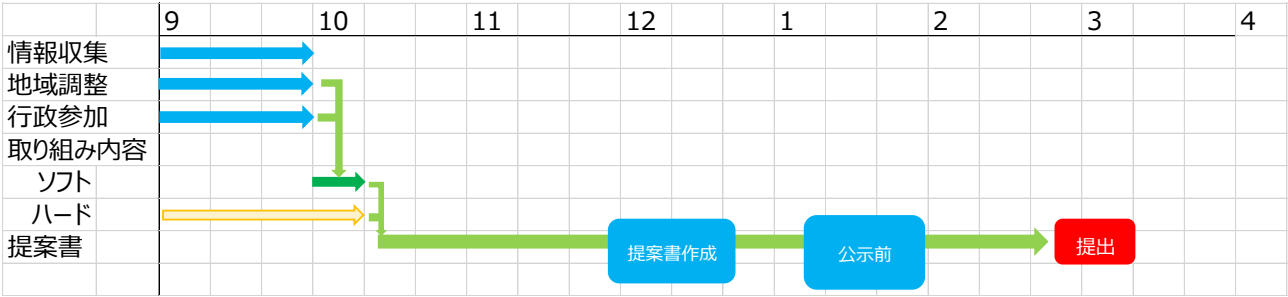
② 希望専門家

2. 活動内容

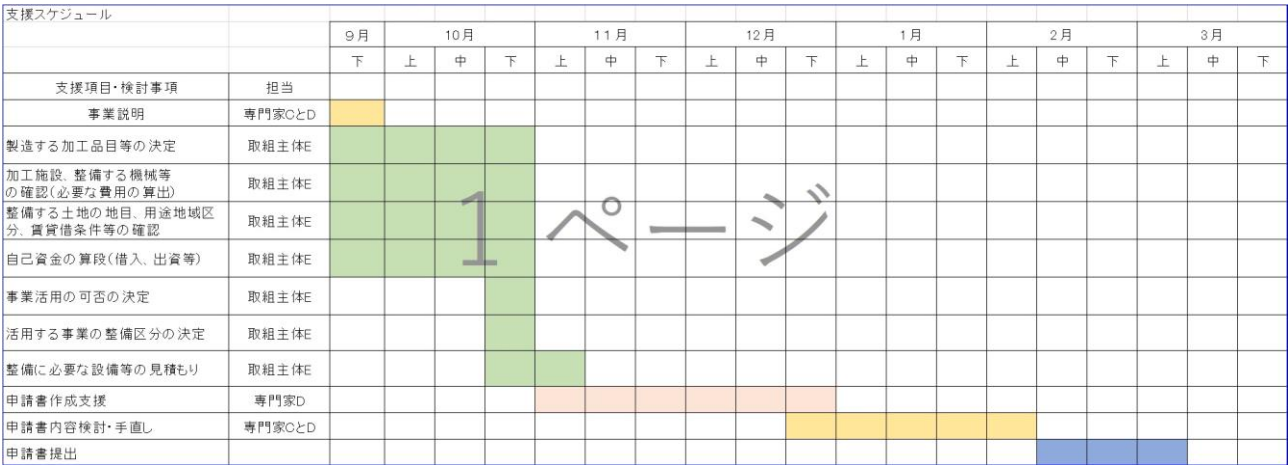
(2) 支援対象取組主体に対する支援内容の特定

⑤ 実地調査を通じた支援内容の特定

派遣された各専門家は、ニーズや課題の整理状況を取組主体との協議を通じて再確認するとともに、求められる支援内容が専門家の持つスキルと合致することを確認した上で、「支援内容ロードマップ」を作成した。



支援内容ロードマップ例1



支援内容ロードマップ例2

(3) 専門家派遣による取組主体への支援

⑥ 取組主体の活動支援

支援内容ロードマップに従い、取組主体は専門家の支援を受けて、課題解決に取り組んだ。

最終的に、本事業における専門家派遣の支援を受けた団体は合計32者であり、うち26者に対して個別支援を、6者に対して地域コンソーシアムの設立支援を行った。

個別支援の対象取組主体26者における、取組の発展段階別支援ニーズは次ページのとおりであった。

2. 活動内容

(3) 専門家派遣による取組主体への支援

農福連携の発展段階別支援ニーズ（専門家派遣による個別支援を受けた取組主体：26者）

ア.農福連携の取組の構想段階又は取組の間もない段階（1～3年未満）の取組主体の確立

①農福連携の「取組の構想段階」の取組主体6者について

取組主体	
分類	件数
社会福祉法人・NPO法人	1
農業経営体・農業	1
民間企業・特例子会社	2
農業協同組合	1
個人	1
	6

ソフト対策	
支援内容	件数
農業・栽培技術の習得	1
ユニバーサル農園	2
教育・人材育成	2
なし	1
	6

ハード対策	
支援内容	件数
低コスト耐候性ハウス	1
作業場・加工場	1
ユニバーサル農園	1
冷凍貯蔵施設	1
土地	1
なし	1
	6

②農福連携の「取組の間もない段階」（1～3年未満）の取組主体3者について

取組主体	
分類	件数
民間企業・特例子会社	3
	3

ソフト対策	
支援内容	件数
教育・人材育成	1
作業マニュアル作成	1
販売体制構築	1
	3

ハード対策	
支援内容	件数
トイレ	1
土地	1
なし	1
	3

イ.農福連携の取組の継続段階の取組主体の発展

③農福連携の「取組の継続段階」の取組主体17者について

取組主体	
分類	件数
社会福祉法人・NPO法人	9
農業経営体・農業	6
民間企業・特例子会社	2
	17

ソフト対策	
支援内容	件数
農業・栽培技術の習得	1
販売技術の習得	2
加工技術の習得	4
ユニバーサル農園	2
教育・人材育成	2
その他	1
なし	5
	17

ハード対策	
支援内容	件数
農産加工施設	2
作業場・加工場	6
冷凍貯蔵施設	1
低コスト耐候性ハウス	3
ユニバーサル農園	2
休憩所	1
トイレ	3
直売施設	1
なし	1
	20

※複数回答あり、ソフト対策26件、ハード対策29件

ソフト対策では、各取組段階を通して、「教育・人材育成」について、支援を希望するケースがみられた。そのため、ニーズや課題を踏まえた「教育・人材育成」の支援として、取組事例紹介による情報提供や意見交換の場づくり等を目的としたセミナーや現地視察を実施することで、課題解決へと導いた。

ハード対策では、「取組の構想段階」及び「取組の間もない段階」（1～3年未満）で新たに農業を始める際において、「土地」に関する相談を希望するケースがみられた。そのため、農地法第3条における農地の権利移動や新規就農、人・農地プラン等についてアドバイスのできる農業委員会経験者やJA等から専門家を派遣し、課題解決を図った。

「取組の継続段階」では、「作業場・加工場」に関する相談を希望するケースが最も多く6件、次いで「低コスト耐候性ハウス」「トイレ」の整備を希望するケースがみられた。このケースにおいては、農山漁村振興交付金等の活用も考慮しつつ、取組主体の事業計画策定を支援した。

2. 活動内容

(3) 専門家派遣による取組主体への支援

⑥取組主体の活動支援

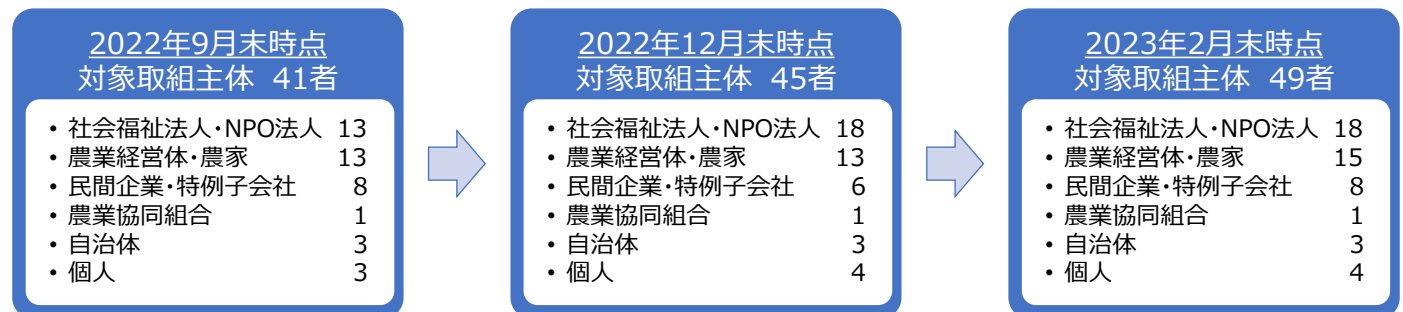
専門家による支援は、支援内容ロードマップに従って段階的に行われた。この支援に対して、取組主体が満足感を得られているか、取組主体は専門家の指導に適切に対応しているかを確認することを目的として、以下2つのモニタリングフォームを作成し、専門家による支援の都度、取組主体と専門家の双方から事務局に報告することをそれぞれに課した。

専門家派遣後の支援カルテ					専門家支援報告書																																																																																																																																																																																																																																								
<table border="1"><tr><td>団体名</td><td colspan="4"></td></tr><tr><td>所在地</td><td colspan="4">〒</td></tr><tr><td>Tel.</td><td colspan="2"></td><td>Fax.</td><td colspan="2"></td></tr><tr><td>担当者</td><td>役職</td><td colspan="3">氏名</td></tr><tr><td colspan="2">担当専門家</td><td colspan="3"></td></tr><tr><td rowspan="7">支援実施日時</td><td>年</td><td>月</td><td>日</td><td>()</td><td>時</td><td>分</td><td>～</td><td>時</td><td>分</td></tr><tr><td>年</td><td>月</td><td>日</td><td>()</td><td>時</td><td>分</td><td>～</td><td>時</td><td>分</td></tr><tr><td>年</td><td>月</td><td>日</td><td>()</td><td>時</td><td>分</td><td>～</td><td>時</td><td>分</td></tr><tr><td>年</td><td>月</td><td>日</td><td>()</td><td>時</td><td>分</td><td>～</td><td>時</td><td>分</td></tr><tr><td>年</td><td>月</td><td>日</td><td>()</td><td>時</td><td>分</td><td>～</td><td>時</td><td>分</td></tr><tr><td>年</td><td>月</td><td>日</td><td>()</td><td>時</td><td>分</td><td>～</td><td>時</td><td>分</td></tr><tr><td>年</td><td>月</td><td>日</td><td>()</td><td>時</td><td>分</td><td>～</td><td>時</td><td>分</td></tr><tr><td colspan="5">支援を受けた内容</td><td colspan="6"></td></tr><tr><td colspan="5"></td><td colspan="6"></td></tr><tr><td colspan="5"></td><td colspan="6"></td></tr><tr><td colspan="5">支援内容に対する対応状況又は今後の対応予定</td><td colspan="6"></td></tr><tr><td colspan="5"></td><td colspan="6"></td></tr><tr><td colspan="5"></td><td colspan="6"></td></tr><tr><td colspan="5">支援内容についてのご感想及びその理由、本事業に対する要望</td><td colspan="6"></td></tr><tr><td colspan="5"></td><td colspan="6"></td></tr><tr><td colspan="5"></td><td colspan="6"></td></tr><tr><td colspan="5">担当専門家および本事業に関する満足度（いずれかに○を付けてください）</td><td colspan="6"></td></tr><tr><td>1. 専門家の支援内容</td><td>満足</td><td>やや満足</td><td>やや不満足</td><td>不満足</td><td colspan="6"></td></tr><tr><td>2. 専門家の姿勢・対応</td><td>満足</td><td>やや満足</td><td>やや不満足</td><td>不満足</td><td colspan="6"></td></tr><tr><td>3. 本事業の内容</td><td>満足</td><td>やや満足</td><td>やや不満足</td><td>不満足</td><td colspan="6"></td></tr></table>					団体名					所在地	〒				Tel.			Fax.			担当者	役職	氏名			担当専門家					支援実施日時	年	月	日	()	時	分	～	時	分	年	月	日	()	時	分	～	時	分	年	月	日	()	時	分	～	時	分	年	月	日	()	時	分	～	時	分	年	月	日	()	時	分	～	時	分	年	月	日	()	時	分	～	時	分	年	月	日	()	時	分	～	時	分	支援を受けた内容																																	支援内容に対する対応状況又は今後の対応予定																																	支援内容についてのご感想及びその理由、本事業に対する要望																																	担当専門家および本事業に関する満足度（いずれかに○を付けてください）											1. 専門家の支援内容	満足	やや満足	やや不満足	不満足							2. 専門家の姿勢・対応	満足	やや満足	やや不満足	不満足							3. 本事業の内容	満足	やや満足	やや不満足	不満足						
団体名																																																																																																																																																																																																																																													
所在地	〒																																																																																																																																																																																																																																												
Tel.			Fax.																																																																																																																																																																																																																																										
担当者	役職	氏名																																																																																																																																																																																																																																											
担当専門家																																																																																																																																																																																																																																													
支援実施日時	年	月	日	()	時	分	～	時	分																																																																																																																																																																																																																																				
	年	月	日	()	時	分	～	時	分																																																																																																																																																																																																																																				
	年	月	日	()	時	分	～	時	分																																																																																																																																																																																																																																				
	年	月	日	()	時	分	～	時	分																																																																																																																																																																																																																																				
	年	月	日	()	時	分	～	時	分																																																																																																																																																																																																																																				
	年	月	日	()	時	分	～	時	分																																																																																																																																																																																																																																				
	年	月	日	()	時	分	～	時	分																																																																																																																																																																																																																																				
支援を受けた内容																																																																																																																																																																																																																																													
支援内容に対する対応状況又は今後の対応予定																																																																																																																																																																																																																																													
支援内容についてのご感想及びその理由、本事業に対する要望																																																																																																																																																																																																																																													
担当専門家および本事業に関する満足度（いずれかに○を付けてください）																																																																																																																																																																																																																																													
1. 専門家の支援内容	満足	やや満足	やや不満足	不満足																																																																																																																																																																																																																																									
2. 専門家の姿勢・対応	満足	やや満足	やや不満足	不満足																																																																																																																																																																																																																																									
3. 本事業の内容	満足	やや満足	やや不満足	不満足																																																																																																																																																																																																																																									

専門家の氏名（名称）		実施年月日		内容							
回		令和	年	月	日	時	分	～	時	分	
1		令和	年	月	日	時	分	～	時	分	
2		令和	年	月	日	時	分	～	時	分	
3		令和	年	月	日	時	分	～	時	分	
4		令和	年	月	日	時	分	～	時	分	
5		令和	年	月	日	時	分	～	時	分	
支援内容											
支援内容に対する対応状況又は今後の対応予定											
支援内容について 自己評価 (○を付けてください)		大変満足	満足	普通	やや不満	不満					
		5	4	3	2	1					
支援内容についてのご感想・意見											
本事業に対する評価 (○を付けてください)		大変満足	満足	普通	やや不満	不満					
		5	4	3	2	1					
本事業についてのご感想・意見											

⑦取組主体に対するフォローアップ

本事業を通じた支援が一過性のものとならないようフォローアップ期間を設定し、専門家派遣の有無にかかわらず支援要請を受けた全ての取組主体に対して、3か月に一度程度の頻度でメール、電話、Zoom等による経過観察を行った。下図にフォローアップの対象となった取組主体数の推移を示す。



フォローアップ対象の取組主体数の推移

2. 活動内容

(4) 委員会の開催

検討委員会の開催

本事業による取組主体への支援効果を高めるためには、取組主体が抱える多様な課題とその解決方法について深い知見を有する有識者からのアドバイスが必要である。そこで本事業では、下表に示す各部門に精通した有識者を招聘し、検討委員会を計2回開催した。検討委員会では、取組主体の課題を共有するとともに、課題解決に向けて協議・意見交換を行った。

検討委員会の有識者

担当部門	所属		氏名
6次産業化	一般社団法人日本農福連携協会	代表理事	榊原 典俊
農福連携全般	千葉大学大学院園芸学研究院	教授	吉田 行郷
販路開拓	パーソルサックス株式会社	代表取締役	中村 淳
農福連携技術支援者	NPO法人長野県セルフセンター協議会	農業就労チャレンジ コーディネーター	沖村 さやか
人材育成	Universal Agriculture Support合同会社	代表社員	金子 栄治
ユニバーサル農園	京丸園株式会社	代表	鈴木 厚志
地域コンソーシアム	高知県農業協同組合 営農指導部 営農企画課	課長	小松 淳

検討委員会の概要

第1回検討委員会		第2回検討委員会
開催日時	令和4年9月15日（木） 13:00～15:00	令和4年12月28日（水） 11:00～13:00
会 場	Zoomミーティングによるオンライン会議	Zoomミーティングによるオンライン会議
主な議題	1. 本事業の概要説明 2. 従前の支援状況について 3. 今後の支援スケジュール等について 4. 取組主体と支援内容についての意見交換	1. 追加公募の結果について 2. 従前の支援状況について 3. 今後の支援スケジュール・成果報告会等について 4. 専門家派遣報告書について 5. 意見交換

最終成果報告会の開催

本事業における取組主体に対する支援内容と結果、その支援効果を整理・共有し、取組主体のさらなる発展に向けた教訓を得ることを目的として、最終成果報告会を開催した。

報告会では、取組主体と専門家が活動概要を報告後、検討委員会の有識者を含めて意見交換が行われた。

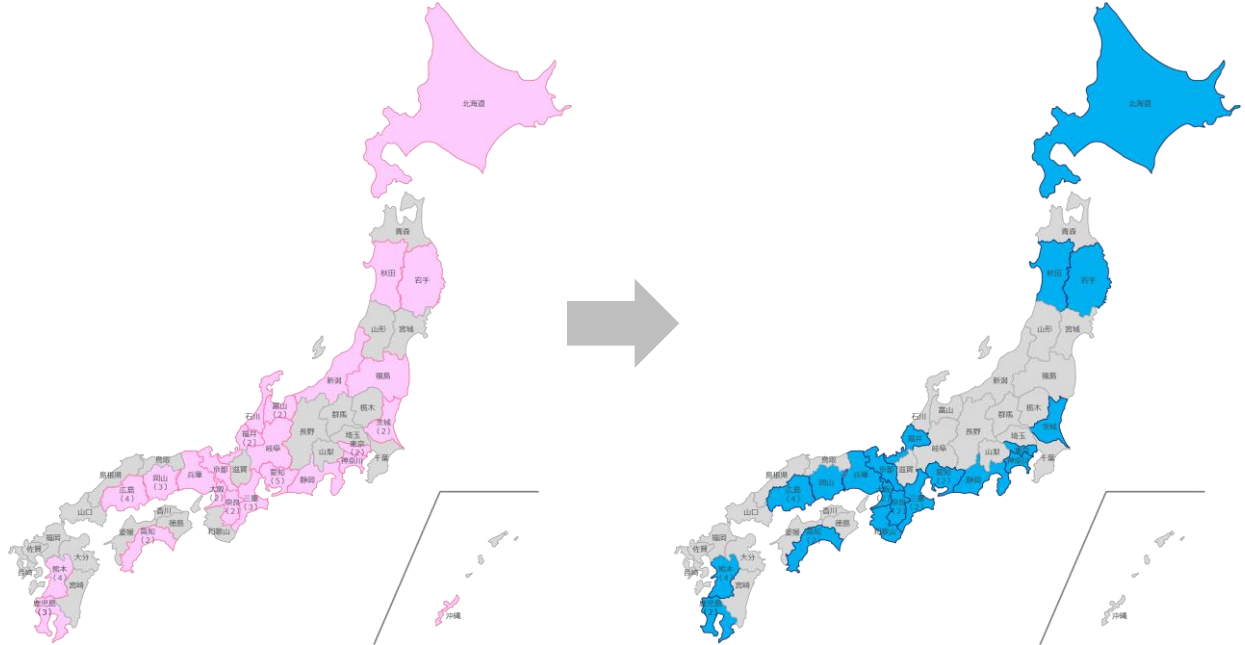
最終成果報告会

開催日時	令和5年2月8日（水） 11:00～14:00
会 場	TKP東京駅カンファレンスセンター
主な議題	1. 活動成果内容等の報告 (1) 菊鉾会×オーガニックワン (2) JA東京中央×土と風の舎 (3) 熊本福社会×こうち絆ファーム (4) コスモケア・エナジー×くまの里福社会 (5) 東広島市×八天堂ファーム 2. 参加者による意見交換

3. 活動結果

(1) 専門家派遣実績

2023年2月末における支援対象取組主体と実際に専門家派遣を受けた取組主体の地理的分布を下図に示す。支援対象の取組主体は49者であり、うち7者は地域コンソーシアム等、複数の団体から構成される組織であった。うち専門家派遣を受けたのは32者であり、うち6者が地域コンソーシアム等であった。



支援対象の取組主体 49者
(うち7者は地域コンソーシアム)
2023年2月末現在

専門家を派遣を受けた取組主体 32者
(うち6者は地域コンソーシアム)
2023年 2 月末現在

専門家派遣を受けた32者のうち、地域コンソーシアム設立支援6者を除く専門家派遣を受け入れた26者の「農福連携の取組 パターン」ならびに「農福連携の取組段階」は下表のとおりであった。

農福連携の取組パターン		取組主体数
(1) 実践行為	直接雇用型	4
	福祉完結型	12
	連携型	7
	グループ内連携側	2
(2) 中間支援	中間支援	1
合計	合計	26

農福連携の取組段階		取組主体数
農福連携の取組の構想段階にある取組主体		5
農福連携の取組を開始して間もない取組主体		4
農福連携の取組の継続段階にある取組主体		17
合計		26

参考：農福連携の取組パターン

「農福連携事例集Ver.3（令和4年2月 農林水産省）」によると、農福連携の取組パターンは

- (1) 実際に障害者とともに農作業を行う「実践行為」
- (2) 実践行為を行う農業者や障害福祉サービス事業所を支援する「中間支援」の取組に分かれる。

また、「実践行為」は、以下4種類に分類される。

①直接雇用型

農業者が障害者を正社員やパート社員として直接雇用するパターン。

②福祉完結型

就労系障害福祉サービス事業所が単独で農業を行うパターン。

③連携型

農業者と外部の就労系障害福祉サービス事業所の設置・運営法人が、農作業に関する請負契約を締結するパターン。

④グループ内連携型

農業者が就労系障害福祉サービス事業所及びその設置・運営法人を併設したり、その逆のパターン。

3. 活動結果

(2) 専門家派遣に至らなかった取組主体17者の主な理由

2022年6月から取組支援候補としてリストアップし、その後の経過をフォローアップしたが、実際に専門家派遣に至らなかった取組主体が17者あった。派遣に至らなかった主な理由として、「支援を受ける時間的余裕がない」が最も多く、次いで「周囲の賛同が得られなかった」であった。このことは、既存の作業で時間的余裕がないことや人員面（職員、利用者等）の不足、現状の業務環境や組織体制などの課題が背景にあると考えられた。

専門家派遣に至らなかった理由	件数
個別支援	
栽培や生産、日常業務に追われ、専門家と時間をかけて課題を設定し、支援を受ける時間的な余裕がなかった。	5
担当者レベルでは農福連携に関心があり取り組みたい意向があるものの、上司や家族等、周囲の賛同が得られなかった。	4
R5年度の公募申請を検討していたが、令和3年度農山漁村振興交付金（農福連携対策（農福連携支援事業））に採択されていたため、本事業による支援が二重補助になることが判明した。そのため、一般社団法人都市農地活用支援センターを紹介し、『農』の機能発揮支援アドバイザー派遣事業を活用することにした。	1
株式会社化を検討しており、B型事業所との連携により農業を開始するために相談を受けた。その後、取組主体者の健康状態が悪化したため専門家派遣とりやめた。	1
通年での安定生産ができておらず、年間売上も定かでなかったため、設備投資に対する費用対効果が見込めなかった。まずは農業・栽培指導を最寄りのJAから新規就農支援を受けながら、R5年度新規担い手規模拡大支援事業の準備を進めることとなった。	1
R5年度の公募を活用して課題解決に向けた準備を進めていたが、期日までに書類等が揃えられないことが明らかになったため、本事業期間内の専門家派遣による支援が不要になった。	1
相談を受けた時期が1月末と遅く、課題解決には時間が足りない判断されたため、本事業における専門家派遣を見合わせた。	3
地域コンソーシアム設立支援	
地域コンソーシアム設立支援を求めているが、取組主体に対する現状確認の結果、地域コンソーシアム設立に向けた活動が十分に実施されており、専門家による支援を必要としないことが明らかになったため、派遣を取りやめた。	1
計	17

(3) 支援事例

本事業では、個別支援26者、地域コンソーシアム設立支援6者について専門家派遣を通じて人的支援を行った。以下では、取組主体と農福連携技術支援者等との連携による結果の事例を、取組主体の取組段階別に計5件例示した。

掲載した事例一覧

事例1：農福連携の「取組の構想段階」の取組主体の確立	東京中央農業協同組合 × 土と風の舎
事例2：農福連携の「取組の間もない段階」の取組主体の確立	株式会社コスモケア・エナジー × くるみの里福祉会
事例3：農福連携の「取組の継続段階」の取組主体の発展	社会福祉法人菊鉾会 × オーガニックワン
事例4：地域コンソーシアムの設立支援	東広島市 × 八天堂ファーム
事例5：地域コンソーシアムの設立支援	南九州農福連携コンソーシアム × こうち絆ファーム・石井記念友愛社

3. 活動結果

(3) 支援事例

事例1【個別支援】農福連携の「取組の構想段階」の取組主体の確立

取組主体：東京中央農業協同組合の概要（パターン：中間支援の取組）

取組主体：農業協同組合 東京中央農業組合		✕	専門家：NPO法人 土と風の舎		
取組主体の所在地	東京都世田谷区				
代表	穴戸 幸男				
設立	1996年4月 6 J Aによる合併				
分類	農業協同組合				
取扱品目・事業内容	総合事業（金融・共済・資産管理・営農経済 他）				
希望する 支援キーワード	【ソフト対策】 ■教育・人材育成 ■その他(農福連携事業における運営ノウハウ全般)				
希望する支援内容	他組織における農福連携事業の取組みについての学習及び職員教育等				
専門家	NPO法人 土と風の舎 渋谷 雅史 氏				
支援内容	・農福連携の取組事例の情報提供・情報交換の場の提供 ・教育・人材育成と農園運営・技術等習得のための視察 専門家 NPO法人土と風の舎が運営する体験型農園「こえどファーム」の視察及びセミナーの受講と質疑応答				

支援アプローチ：視察及びセミナー		
日程	令和4年11月25日	
視察先	こえどファーム（埼玉県川越市）	
講師	NPO法人 土と風の舎 代表理事 渋谷 雅史 氏	
行程	10:10～10:15	集合、視察前ミーティング
	10:15～12:00	こえどファームの見学
	13:10～15:00	渋谷講師によるセミナー 質疑応答
内容	こえどファームの設立趣旨、活動形態、運営方法、農福連携の取組例等について説明。ユニバーサル農園を開設・運営するためのスキームやノウハウ、補助金申請のコツ、年間プログラム、NPO法人の運営および資金調達等について講説・助言した。 その後、セミナーを実施し、意見交換、質疑応答を行った。	
事務局の気づき	農業者、JA、NPO法人等、立場の異なる参加者での視察及びセミナーでの意見交換・質疑応答は、多様な活動形態、運営手法を知ること、農業経営における農福連携の在り方、ユニバーサル農園の運営形態が確立されてくると思料する。 このことは、多様性のある農福連携やユニバーサル農園を推進する上で重要であり、参加者にとって貴重な機会だったと言える。	



3. 活動結果

(3) 支援事例

事例1【個別支援】農福連携の「取組の構想段階」の取組主体の確立

参加体験型農園「こえどファーム」の視察を終えた取組主体の感想



農業組合という組織においては学ぶことがほぼ無い「園芸療法」や「園芸福祉」という新たな分野の学びを得る機会を得たことで、視察同行した職員がその資格に興味を得るに至り、職員のキャリア形成にも少なからず影響を与えることとなった。

「こえどファーム」を運営する従事者も、様々なハンデを抱える方も一般の利用者と分け隔てなくフラットな関係でいるという自由な運営方法は、当組合の状況とは大きく異なる環境でもあるということも含めて「農福連携」の多様性及び更なる可能性を感じた。



今回の視察での学びを活かし、【都市農家】と【福祉】を繋ぐ「架け橋」となれるよう、今後も可能性への取り組みに挑戦していきたい。

事例2【個別支援】農福連携の「取組の間もない段階（1～3年未満）」の取組主体の確立

取組主体：株式会社コスモケア・エナジーの概要（パターン：福祉完結型）

取組主体：民間企業

コスモケア・エナジー



専門家：社会福祉法人

くるみの里福祉会

取組主体の所在地	広島県広島市東区
代表	堀島 由利
設立	2011年1月
分類	民間企業
取扱品目・事業内容	高齢者デイサービス 生活介護 児童通所支援事業等 R4年5月から自社での生産力、SDGSに貢献できる自然農法農園を開始
希望する支援キーワード	【ソフト対策】 ■農業・栽培技術の習得 ■作業マニュアル作成 ■教育・人材育成 【ハード対策】 ■トイレ ■農産物集荷施設
希望する支援内容	他組織における農福連携事業の取組みについての学習及び職員教育等
専門家	社会福祉法人 くるみの里福祉会 藤岡 和俊 氏 (農福連携技術支援者)
支援内容	・農福連携の取組事例の情報提供・情報交換の場 ・教育・人材育成とつなぐ農福連携を地域づくりのキーワードに据えた地域共生社会の実現等のためのセミナーと意見交換、質疑応答。

3. 活動結果

(3) 支援事例

事例2【個別支援】農福連携の「取組の間もない段階（1～3年未満）」の取組主体の確立

支援アプローチ：セミナー開催

日程	- 令和4年 6月23日 課題の抽出 - 令和4年11月29日 現状確認 - 令和5年 1月19日 セミナー開催
内容	セミナーでは、講師である「くるみの里福祉会」の運営する生活介護事業所と就労継続支援B型事業所のお店、2つの事業所の紹介、地元農家への施設外就労を通じた伝統野菜作りや自園での農業の取組、また、県立高校とコラボしたパンの商品化等、農福連携技術支援者としての立場から農福連携推進活動等について説明を行った。 緊急に必要なハード面のインフラ整備は、自社予算でできるようであれば、すぐに取り掛かってみるよう助言した。
支援における留意点	周年栽培計画、販路の開拓、軒下マルシェ等、強みを活かした取組が重要との認識に立ち、段階的な取組になるよう配慮した。 まずは、大根、さつまいもなどの露地栽培で安定した収量を確保し、次に、新たな作物（稲作、苗づくり）にも取り組んでいただくことにより、農業で収益を上げ、利用者へ賃金を支払えることを目標に定め、継続的な支援を行った。またさらなる発展に向けて、交付金の活用も視野に入れてアドバイスした。

セミナーに対する取組主体の感想

現在携わっている生活介護では、身体能力の低い方が多く、なかなか畑が難しい人がいるが、施設の中でもできる作業（野菜の箱詰めなど）もあると聞き、可能性が広がった。

農家と福祉をつなぐコーディネーターの方がいることが分かった。広島にもご活躍の方がおられることを聞いたので、いつか訊ねてみたいと思った。

「畑に来ててもなにもせず見るだけだった方が、3年目に自らやれるようになった。眠れなくて眠剤を必要としていた人が眠剤を服用しなくても眠れるようになった。」等の事例を伺い、農業に癒し効果が高いことが理解できた。

農業と福祉のコラボでこんなことが行われていることに驚いた。賃金として報酬もあればやりがいがあると思った。わが社でもSDGsの考えでやっているの、生産・販売・賃金につなげられるといいと思った。

農薬や化学肥料を使わない農法が、障害のある方にも安全な農法として広がっている話も伺った。とても素晴らしいことだと思った。

講習の中で付加価値をつけることが大切だと教えていただいた。今後は、自然栽培の野菜+加工+販売につないでいければいいと思った。

今後は、まだ残っている土地を畑として拡大していきながら知人から依頼されている稲づくりにも農福連携でチャレンジし、作物、その加工品などの販売につなげられるように努力していきたい。

